

森林やまがた

No.176

2018.7



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

「やまがた森の感謝祭2018」を開催……………	2
平成30年度山形県森林・林業功労者について…	4
森林環境緊急保全対策事業……………	5
平成30年度森林整備関係事業 （国庫補助事業）の概要について……………	6
山形県の流木被害防止対策について……………	7
松くい虫被害とその対策について……………	7
みどりのページ	
平成30年度緑の募金街頭キャンペーン……………	8
平成30年度緑化推進事業助成金の 交付決定について……………	9
再造林に必要な種子とコンテナ苗の生産振興…	10
おいしい山形空港の内装木質化について……………	10

フォレスト通信……………	11
センタートピックス	
山形県低コスト再造林技術実証試験事業……………	12
森の紹介	
荒木仁志さん・山口 進さん……………	13
『やまがた むらやま地域』	
バイオマスエネルギーのはじめかた……………	14
最上町における苗木生産の取組みについて……………	15
「木質バイオマス発電」の稼働に向けて……………	15
未利用木質バイオマス発電の取組みについて……………	16
羽越木材協同組合 大型製材工場稼働……………	17
丸太価格・製材品価格の推移……………	18

「やまがた森の感謝祭2018」を開催

山形県では、六月の第一土曜日を「やまがた森の日」と定め「やまがた森の感謝祭」を開催しています。

今年度は、六月二日に飯豊町の「山形県源流の森」を会場に、「守ろうよ未来へつなぐ 緑のバトン」をテーマに開催しました。

オープニングアトラクションでは、源流の森アルプホルンクラブによる演奏と飯豊町少年少女合唱団「ミルキーウェイ」による合唱が披露され、雄大なアルプスを連想させるような音色と爽やかな歌声が初夏の源流の森に響き渡りました。

式典では、主催者を代表して吉村知事が「この感謝祭を契機に、森を守り、育て、暮らしに活かしながら、次の世代に緑のバトンをつなげ、『みどりの循環』の輪が大きく広がることを心から祈念します。」と挨拶しました。

森林・林業功労者の表彰では、木材・林産の振興部門で鮭川村の深田周一（ふかだしゅういち）氏に、県民参加の森づくり部門で高島町の安久津八幡山を守る会、山村・林業の

振興部門で鶴岡市の上林幹夫（かんばやし みきお）氏に感謝状が贈られました。

また、山形県CO₂森林吸収量認証制度による森づくり認証では、三十三の企業・団体が認証され、代表して株式会社ウンノハウスとマックスバリュ東北株式会社に認証書が授与されました。



緑の少年団に託されたリレー旗

森づくりリレー旗の交付は、吉村知事から飯豊町の緑の少年団に手渡

され、今年度の森づくりリレーがスタートしました。

式典の最後には、吉村知事と「緑の少年団」の子ども達や森林ボランティアアリーダー、さらに県内各地のご当地キャラクターも応援にかけつけ、「森に感謝し、森を育て、暮らしや産業に活かして、『やまがた森林（モリ）ノミクス』を進めましょう。そして、県民みんなで支える森づくりの輪を広げ、豊かな緑と水のバトンを未来につなげていきましょう」と力強く宣言しました。



会場全員で「森づくり宣言」

記念植樹では、主催者や来賓、飯豊町の緑の少年団が、山形トヨペット株式会社から寄贈された「ソメイヨシノ」を植樹しました。



植樹後の記念撮影

また、「森のホームステイ」の活動も行いました。これは、森で採取したどんぐり（ミズナラ等の種）を竹ポットに植え、苗木を各家庭や学校職場などで育ててもらい、再び森に返すというものです。今回は、六十鉢の竹ポットを準備し、みなさんに持ち帰っていただきました。

このほかに、会場内の展示・体験・販売コーナーでは、「子ども上棟式」として、飯豊町建設組合による指導のもと、子ども達による建築部材の組み上げが行われ、完成後は餅などの縁起物を手にしようとする沢山の人の熱気に包まれました。また、バームクーヘンや森のポプリ、竹とんぼづくりなどのクラフト体験、山形県猟友会による模擬銃の試射体験など様々な催しが行われました。



「子ども上棟式」の様子

森づくり活動では、緑の少年団がウッドチップ敷き、一般参加者が植樹を行いました。ウッドチップ敷きの会場では丸太をチップに加工する

チップの実演が行われ、ナラ枯れや松くい虫などの被害木が有効活用されていることを学びました。その後、各班にわかれバケツなどを利用してチップ敷きを行いました。完了後は、チップのフカフカした感触を楽しみながら、みんなで記念写真を撮りました。



「ウッドチップ敷き」の様子

感謝祭当日は、朝から雲ひとつない晴天となり、照りつける日差しのもと、約千二百人の方々から参加いただき、源流の森で楽しい一日を過ごすことができました。

山形トヨペット株式会社から 奇贈していただきました

「やまがた森の感謝祭」の開催に先立ち、五月十六日に山形トヨペット株式会社の鈴木寿昭社長と緑の大使であるミス・インターナショナル日本代表の杉本雛乃（すぎもと ひなの）さんが来庁され、福島県産ソメイヨシノのほか苗木六十本と森づくり活動で使用する児童用ヘルメット80個を副知事に贈呈していただきました。

これは、トヨタグループによる「第43回ふれあいグリーンキャンペーン」の一環として行われているもので、緑の大使からは協賛を受けている公益社団法人国土緑化推進機構からのメッセージも伝えられました。副知事からさくらんぼのブローチがプレゼントされるなど、終始和やかな懇談となりました。

贈られた苗木は、感謝祭の記念植樹に、ヘルメットについても、子ども達の森づくり活動で活用させていただきます。

〔県みどり自然課〕



贈呈された方々との記念撮影



「緑の大使」からの苗木贈呈

山形県森林・林業功労者について

◆はじめに

六月二日(土)に山形県源流の森(飯豊町)で開催された「やまがた森の感謝祭2018」において、吉村知事から森林・林業功労者に感謝状が贈呈されました。



今年度の受賞者

山形県森林・林業功労者については、毎年、森林・林業の振興及び緑化推進等に顕著な功績があった個人や団体を対象に、
一 「森林づくり」部門
二 「森林保護保全」部門

三 「山村・林業の振興」部門

四 「木材・林産の振興」部門

五 「緑化の推進」部門

六 「県民参加の森づくり」部門

の六部門の中から選出して表彰しているものです。

今年度は、二個人、一団体が受賞しましたので、その功績について紹介します。

◆「木材・林産の振興」部門

ふか だ しゅう いち
深田周一氏

えのきたけの通年栽培技術を確立し、きのこ栽培方法の基礎を創ると共に、鮭川村菌茸生産組合連絡協議



深田周一氏
(代理 深田よし子氏)

会会長を務め、長年にわたって他の菌茸生産農家を牽引しました。現在も、ぶなしめじ生産に取組み、その培地には県産スギを使用し、木材・林産振興に貢献されています。

◆「県民参加の森づくり」部門

団体 安久津八幡山を守る会

安久津八幡山の松くい虫被害をきつかけに、防除講習会を開催し、被害防除に尽力。また、被害材を原料に地元の学生や企業と共に八幡山のチップ歩道の整備等を通じて地域交流を深め、里山の自然と保全活動の重要性を普及されました。会の活動は安久津八幡宮、三重塔など観光名勝地の景観保全に大きく貢献されています。



安久津八幡山を守る会
会長 一戸 芳樹氏

◆「山村・林業の振興」部門

かん ばやし みき お
上林幹夫氏

地元森林組合の合併を推進し、合併後は組合理事、副組合長を歴任し、組合事業の安定化に貢献。その傍ら、所有山林を積極的に経営し山形県林業士として認定され、また、庄内林業研究会の理事として、小中学生への森林・林業の体験学習や森林所有者の休日林家の講師を務めるなど、林業後継者の育成と地域林業の活性化に指導者として精力的に活動しています。



上林 幹夫氏

おわりに

深田周一様、上林幹夫様、安久津八幡山を守る会の皆様、誠にありがとうございます。今後のますますのご活躍をご期待申し上げます。

〔県林業振興課〕

森林環境緊急保全対策事業

「やまがた緑環境税による森林整備」

◎森林環境緊急保全対策事業

やまがた緑環境税を活用した森林整備は、平成19年度から実施しており、平成28年度までの10年間の実績は約1万1800ha（計画面積1万1600ha）となっています。しかし、平成27・28年度に本事業の評価検証を行った結果、平成28年時点で未だ荒廃のおそれのある森林が約12万ha残されていると推定されたことから、前10年間と同じ1万1600haの目標を設定し、引き続き森林整備を実施することとしました。

平成29年度の森林整備について、
①荒廃森林緊急整備事業、②森林資源再生事業、③森林資源循環利用促進事業、④広葉樹林健全化促進事業の4つの事業ごとに取組み実績をお知らせします。

①荒廃森林緊急整備事業

本事業では、荒廃のおそれのある人工林の間伐や、活力が低下している里山林の森林病害虫などによる被害木伐採等の森林整備を行うもので、平成29年度の実施面積は、目標の1

020haを上回る1090haとなりました。内訳は、荒廃のおそれのある人工林の森林整備は593ha、病虫害で荒廃した里山林再生のための森林整備は497haとなっています。

また、評価検証の際に、緑環境税を活用した森林整備をもつとPRすべきとの意見をいただいたことを受け、遊佐町西浜地区に大型看板を設置しました。お近くを通る際は、是非ご覧ください。



②森林資源再生事業

本事業では、森林の有する公益的機能の維持造林及び持続的発揮のために、再造林に要する経費の一部を支援しています。平成29年度は、国庫補助事業に嵩上げし、森林所有者の負担なく再造林できる仕組みとし、森林経営計画策定区域内で実施された再造林48haに対し、支援を行いました。なお、平成29年度から、国庫補助事業採択できない小面積の再造林についても、苗木経費の全額支援を行うこととしていましたが、要望がありませんでした。

③森林資源循環利用促進事業

本事業では、人工林における間伐材等の低質材を集成材の材料やペレット等のバイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図ることとしており、平成29年度は、低質材4万3000立方メートルに対し支援を行いました。

低質材については、新たな木質バイオマス発電所の稼働など、需要の増加が見込まれています。低質材であっても、利用可能な材は林内に放置せず、循環利用の推進に向け、是非本事業を活用してください。

④広葉樹林健全化促進事業

本事業では、ナラ林等を伐採し、健全な広葉樹林に更新するため、材の搬出及び作業道設置を支援しており、平成29年度は搬出された762立方メートルに支援を行いました。

◎平成30年度の森林整備計画

やまがた緑環境税による森林整備の中核となる荒廃森林緊急整備事業は、目標である1160haの森林整備を行うこととしています。

また、森林資源再生事業は、国庫補助事業への嵩上げ補助を継続するほか、小面積再造林を行った場合の苗木経費の全額支援も継続します。是非ご活用ください。

さらに、平成30年度の新たな取組みとして、森林の公益的機能の維持増進に資するための低密度植栽試験を行うこととしています。本年秋に植栽を行い、次年度以降、下刈り回数、低減について検証を行い、育林方法の一つとして提案できればと期待しています。

今後とも、やまがた緑環境税を活用した森林整備について、広く周知を図り、着実に進めてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。
〔県林業振興課〕

平成三十年度森林整備関係事業

(国庫補助事業)の概要について

●はじめに

近年、県内各地に木質バイオマス発電施設や、大型木材加工施設の建設が進み、木材需要が増大していることから、安定的な原木供給が必要となっております。

県では、森林施業支援事業や合板・製材生産性強化対策事業などの国庫補助事業を実施し、再造林や保育、間伐材生産等を行う方々に支援を行っています。

このたび、平成30年度の森林整備関係の各事業（国庫補助事業）の概要や事業執行上の留意点を整理しましたので、お知らせします。

●県予算の状況

森林施業支援事業の県予算額は、対前年度比約90%となりましたが、総額では5億9千万円を確保することができました。また、今年度から国で予算措置された林業・木材産業成長産業化促進対策事業については5千万円、平成29年度の国の補正予算に伴い措置された合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策事業については1億5千万円を確保

し、森林整備を推進してまいります。

①森林施業支援事業の標準単価について

本事業における人工造林の標準単価については、これまで現地条件をササ地のみで設定していましたが、事業実績を精査したところ、現況が草地の箇所でも人工造林されていることが確認できました。

そのため、平成30年度から新たに現地条件に草地を追加し、人工造林の標準単価を設定しましたので、本事業を活用し人工造林を実施する場合は、現地状況を必ず確認してから施行するようお願いいたします。

②森林施業支援事業の適正な執行について

本事業については、他県において補助金の不正受給の実態が判明したことから、再発防止策として検査方法の見直しを行うこととしています。具体的には、事業主体と森林所有者が確実に契約書を締結していることを確認するため、

○契約書は森林所有者の自筆署名で作成する

○検査時に検査員が森林所有者へ電話し、契約締結状況を確認することと
といった新たな対策を講じることとしてまいります。

その他、事業主体と認定者が保有する森林経営計画に齟齬がないことの確認や搬出材積の確認は原則として出入荷伝票とすることなどにより、不正事案の未然防止を図ることとしています。

③林業・木材産業成長産業化促進対

策事業について

本事業では、意欲と能力のある林業経営体に森林の経営・管理を集積・集約するとともに、川上から川下までの連携による生産・加工・流通コストの一体的な削減を図る取組みを支援することを目的としています。

メニューの一つである間伐材の生産については、路網等の生産基盤を重点的に整備する「生産基盤強化区域」内で実施することで、間伐材生産のコスト削減と川下への木材の安定供給を図ることとしています。

④合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策事業について

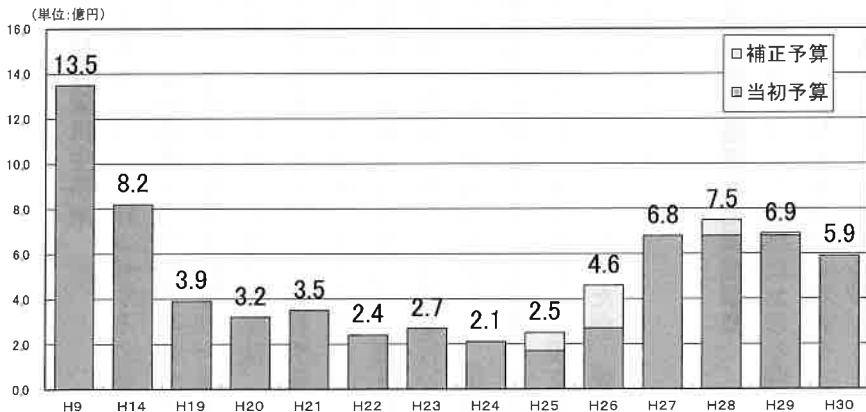
本事業では、国際的競争力強化に向け、体質強化計画の事業対象区域において、幹線となる路網整備と搬出間伐を実施し、合板・製材・集成材工場に対して低コストで安定的に原木を供給することを目的に実施するものです。

●おわりに

県では、今後とも森林整備事業の推進に努め、安定的に原木を供給するため、計画的な間伐を進めるとともに、伐採後の再造林の促進を図って参りますので、今後とも積極的に取組んで頂くようお願いいたします。

〔県林業振興課〕

森林施業支援事業の予算額の推移



山形県の流木被害防止対策について

◆林野庁「流木災害に対する治山対策検討チーム」の設置
 平成二十九年七月に発生した九州北部豪雨では、記録的な豪雨により多数の山腹斜面が崩壊し、大量の流木による甚大な被害が発生しました。

このような背景から、林野庁は平成二十九年七月十二日に「流木災害に対する治山対策検討チーム」を設置し、学識経験者等から意見を伺い、流木災害を含む山地災害の実態把握や山腹崩壊の発生メカニズムの分析・検討等を行い、今後の事前防災・減災に向けた効果的な治山対策の在り方について検討しました。

◆山形県の取組み
 九州北部豪雨による災害と同様な災害が全国各地で発生する可能性を踏まえ、荒廃状況、流木発生の危険性等を確認しながら、以下により事業箇所を選定していきます。

- ・0次谷等の凹地形及び溪床・溪岸が荒廃している又は荒廃の兆候がみられる溪流
- ・荒廃又は荒廃の兆候がみられる箇所と同一の地質が流域内に広く分

布している溪流
 ・溪流沿いに土石流等で流木化するおそれのある立木が多数存在している溪流

なお、既設整備地区であっても、九州北部豪雨など昨今の災害の発生形態を踏まえ、必要な箇所には既存ダムに流木捕捉機能を付加したダムへ改良するなど、流木対策に取り組んでいきます。

◆平成二十九年年度補正予算対応
 全国の中小河川の緊急点検を実施する国土交通省と連携して、緊急的・集中的に流木対策が必要な箇所として抽出した九箇所のうち八箇所において治山事業を実施しており、そのうち五箇所で流木対策を実施してきます。

◆平成三十年度当初予算対応
 平成二十五、二十六年の豪雨災害で被災を受けた白鷹町において、流木被害対策調査で「緊急対策箇所」と位置付けた地区の早期対策を図るよう、地域一体的に流木対策を講じていけるよう調整を図ります。

〔県林業振興課〕

松くい虫被害とその対策について

◆松くい虫被害とは？
 現在、日本中で特異的なマツ枯れ被害がもたらされています。これは、マツノザイセンチュウという線虫がマツに侵入することでマツを枯らし、その線虫を運ぶマツノマダラカミキリにより、被害がまん延してきます。これを松くい虫被害とい

◆県内の松くい虫被害の経緯
 昭和五十三年度の発生以来、増加と減少を繰り返しながら推移し、平成十五年度をピークに減少傾向となっていました。平成二十五年度から増加に転じ、特に、海岸林を有する庄内地域において被害が著しく増加しました。

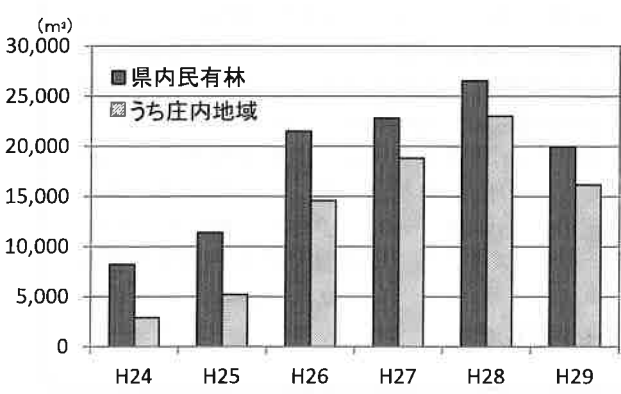
◆最新の被害状況（民有林）
 平成二十九年年度の県内民有林における松くい虫被害量は、約二万立方メートル（マツの本数に換算すると約三万六千本）でした。前年度の被害と比べると約七十五パーセントと被害が減少しましたが、庄内地域を中心に被害量は依然として高い水準であるため、予断を許さない状況が続いています。

◆松くい虫被害対策
 特に被害が多く、マツ以外の樹種への転換が困難な庄内地域の海岸林においては、薬剤散布等の予防措置被害木の伐倒・破砕による駆除を効果的に組み合わせ、徹底した駆除を行っていきます。

その他の地域においても、国指定の文化財や保安林、森林公園等の重要な松林に防除を重点化し、被害木の伐倒・くん蒸処理による駆除や薬剤注入による予防措置を図ります。

〔県林業振興課〕

県内民有林の松くい虫被害量の推移





みどりのページ

平成30年度緑の募金街頭キャンペーンを行いました

(公財)山形県みどり推進機構では、新緑が

芽吹く4～5月の「春募金」の期間中に県民の皆様や団体などに緑の募金への協力の呼び掛けを行っています。特に、4月15日から5月14日まで

を緑の募金強調月間【みどりの月間】としており、この期間にあわせて県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを開催し、「緑の募金」を広く県民の皆さんに周知するとともに、募金への協力を呼び掛けました。

緑の募金街頭キャンペーン出発式

◆期日 平成30年4月19日

◆場所 文翔館前広場(山形市)

4月19日には文翔館前広場において緑の募金街頭キャンペーン出発式を開催し、これまで緑の募金に功績のあった企業や団体の皆様への感謝状の贈呈や、保育園児による緑のメッセージの読み上げ、ボランティア団体への募金資材の引渡しなどを行いました。また、一般参加者には今年も西洋シャクナゲの苗木をプレゼントし、今年度の緑の募金活動は華やかなスタートを切りました。

出発式の後は山形駅や七日町周

辺に加え、花見客で賑わう霞城公園の周辺でも街頭募金活動を行い、多くの善意をいただくことができました。

◆平成30年度感謝状贈呈団体

クアーズテック(株)、(有)小関興業、庄内環境緑化事業協同組合、(株)荘内銀行、新和設計(株)、精英堂印刷(株)、(株)高橋組、タンノ清掃興業(株)、(株)東北緑地造苑、山形電子(株)、山形富士電機(株)(五十音順)

◆街頭募金に協力いただいた団体

山形県緑を育てる女性の会
山形グリーンライフ女性の会
成沢グリーンワールド協力隊
東海大学山形高等学校(順不同)
◆募金額 45、299円



山形駅自由通路での募金活動

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (H30. 4. 1～5. 31)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

アイ・エム・マムロ(株)、(株)朝日測量設計事務所、梓工房、(株)阿部林業、(株)荒正、(株)安藤組、(株)石川測量事務所、(株)伊藤組、(株)漆山木材店、(株)ウンノハウス、(株)エイアンドシー、(株)榎本測量設計事務所、(有)遠田林産、大江ロータリークラブ、(株)大山製材所、岡崎医療(株)、(株)沖田木材産業、(株)カキザキ、(株)春日測量設計、(株)克技術設計、(特非)環境ネットやまがた、(株)菊地建設、(株)工藤測量設計、(福)敬寿会沼木敬寿園、(株)後藤材木店、コマツ山形(株)、蔵王食品(株)、寒河江ライオンズクラブ、寒河江ロータリークラブ、佐久間会計事務所、(株)佐藤工務、(有)佐藤測量設計事務所、サニーヒル菅沢、(有)三英クラフト、(特養)山静寿、JA共済連山形、JA全農山形、渋谷建設(株)、(株)下山製材、(株)庄内測量設計舎、白岩土木建設(株)、白鷹ライオンズクラブ、(有)真和技建、(株)鈴木久測量設計事務所、(株)鈴木測量事務所、(株)成和技術、高島電機(株)、高島ロータリークラブ、立川ロータリークラブ、天童西ロータリークラブ、天童東ロータリークラブ、天童ロータリークラブ、東北電力(株)山形支店、東北ナノテック(株)、(特養)とかみ共生苑、長井中央ロータリークラブ、(特養)なごみの里、南陽ライオンズクラブ、(株)ニクニ白鷹、西置賜ふるさと森林組合、(一社)日本自動車販売協会(連)、農林中央金庫山形支店、(株)フィデア総合研究所、(有)フジハラ自動車、(株)北都測量設計、(株)マイスター、(株)マツダ建設、ミドリオートレザ(株)、村山ロータリークラブ、(株)もがみ木質エネルギー、山形イブニングロータリークラブ、(株)山形環境エンジニアリング、(株)山形銀行県庁支店、山形県医師会、(公社)山形県看護協会、(公財)山形県企業振興公社、山形健康管理センター、山形県後期高齢者医療広域連合、(公財)山形県国際交流協会、山形県国民健康保険団体(連)、(公財)山形県産業技術振興機構、山形県市長会、山形県市町村職員(共済)、山形県社会福祉協議会、山形県商工会(連)、山形県職業能力開発協会、山形県私立学校総(連)、山形県信用保証協会、(公財)山形県体育協会、山形県中小企業団体中央会、山形県町村会、山形県土地改良事業団体(連)、(公財)山形県埋蔵文化財センター、(公財)山形県林業公社、山形酸素(株)、(株)山形城南木材市場、山形中央ロータリークラブ、山形農業協同組合、山形南ロータリークラブ、(株)山形メタル、山形ロータリークラブ、(有)山口製材所、米沢信用金庫、米沢ライオンズクラブ、(有)渡部製材所、(株)渡会電気土木

(以上、敬称略・五十音順)

ご協力ありがとうございました。



みどりのページ

(公財)山形県みどり推進機構

当法人では、緑化の推進や普及啓発、森林環境教育等を行うボランティア団体等に助成しており、平成30年度の採択事業が下表のとおり決定しましたのでお知らせします。

**平成30年度緑化推進事業
助成金の交付決定について**

- ◆ 期日 平成30年5月12日
 - ◆ 場所 エスモール(鶴岡市)
 - ◆ 募金額 6,121円
- ブルーベリーの苗木をプレゼントしながら、買い物客で賑わうエスモールで緑の募金活動を行いました。

庄内地域街頭キャンペーン

- ◆ 期日 平成30年4月21日
 - ◆ 場所 松が岬公園周辺(米沢市)
 - ◆ 募金額 25,792円
- 桜が満開の松が岬公園周辺で、米沢市緑の少年団員が元気いっぱい緑の募金への協力を呼び掛けました。

置賜地域街頭キャンペーン

- ◆ 期日 平成30年4月22日
 - ◆ 場所 新庄駅周辺等
 - ◆ 募金額 33,838円
- 北辰小学校みどりの少年団員と新庄東高校、新庄南高校の生徒の協力により、元気いっぱい緑の募金への協力を呼び掛けました。

最上地域街頭キャンペーン

平成30年度 公益財団法人山形県みどり推進機構 緑化推進事業交付決定一覧表 (単位:千円)

市町村	申請団体	採択額	市町村	申請団体	採択額
①都市・農山村の環境緑化整備事業(1件あたり上限30万円)			②都市・農山村の環境緑化維持管理事業(1件あたり上限10万円)		
天童市	立谷川の花さかじいさん	240	金山町	上台地区	80
朝日町	大沼区	160	金山町	三枝地区	80
最上町	緑を愛する会	300	金山町	壮樹会	54
米沢市	北町共和会	225	金山町	楯山を愛する会	95
米沢市	特定非営利活動法人斜平山保全活用連絡協議会	240	金山町	楯台地区公園保全会	87
米沢市	三沢花いっぱい運動推進協議会	300	金山町	羽場地区自治会	80
長井市	花と緑・環境の会	240	金山町	安沢地区	76
白鷹町	羽黒の森を守る会	240	米沢市	窪倉豊心会	79
飯豊町	お伊勢堂里山再生協議会	240	米沢市	芳泉町桜の会	80
飯豊町	手ノ子区協議会	240	米沢市	芳泉町町内会	80
鶴岡市	温海川自治会	240	米沢市	米沢市立第六中学校父母と教師の会	80
鶴岡市	あつみ湯けむり女子会	240	米沢市	米沢市倫理法人会社会貢献委員会	80
鶴岡市	小菅野代自治会	127	長井市	岡鼠原のみ会	56
酒田市	門田自治会	186	長井市	勸進代区	100
②都市・農山村の環境緑化維持管理事業(1件あたり上限10万円)			飯豊町	上郷地区緑化推進協議会	80
山形市	長町第9区町内会	80	飯豊町	東山友志会	80
山形市	成安癒しの川(白川)を守る会	100	鶴岡市	温海温泉自治会	80
山形市	山形グリーンライフ女性の会	80	鶴岡市	木野俣自治会	80
天童市	上貫津町内会	80	鶴岡市	昭和通り振興会	72
山辺町	大蕨棚田さくら公園設置管理運営委員会	100	鶴岡市	鶴岡市温海第3地区自治会	80
山辺町	ヒメサユリを植える会	16	鶴岡市	藤倉山ブナ林保存会	80
中山町	月山櫻遊会	80	鶴岡市	美原町町内会	80
中山町	天盃泉利用組合	80	鶴岡市	山五十川自治会	80
寒河江市	慈恩寺共有山林組合	80	庄内町	あまるめさくら咲多会	56
西川町	石田町内会	70	③県土緑化の普及啓発・調査研究事業(1件あたり上限10万円)		
西川町	西川町海沢町内会会館運営委員会	80	山形市	山形県緑を育てる女性の会	71
尾花沢市	芭蕉の道フラワーロード咲花草会	40	朝日町	ひめさゆり愛好会	80
尾花沢市	ニツ森観光開発促進委員会	80	小国町	Walnusswald	80
尾花沢市	宮沢翁塾	56	酒田市	万里の松原に親しむ会	80
新庄市	山形県林務職員村農同窓会	80	④森林環境教育事業(1件あたり上限10万円)		
金山町	有屋地域公民館連絡協議会	100	山形市	山形県指導林業士会	80
金山町	稲沢地区	80	米沢市	三沢地区学校林整備委員会	80
金山町	入有屋地区	80			

「再造林に必要な種子とコンテナ苗の生産振興」

森林資源の循環利用の起点である主伐後の再造林を推進するためには、需要に見合う種子と苗木の安定供給が必要となります。

県の林木育種園では、多様で山形の環境に適した優良種子を生産しています。従来の耐雪性、成長が良い品種に加え、近年は少花粉スギやマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツなどの種子生産と、効率的な種子生産のためのミニチュア採種園の造成を進めています。

再造林に係る費用を軽減するためには、苗木生産と植栽作業の効率化が期待できるコンテナ苗の活用が重要となります。そのため、平成27年度から県単独事業のコンテナ苗普及促進事業を実施し、生産出荷に必要な施設整備等を支援しています。

今後は、苗木生産技術の指導等を通して、生産者の技術向上と新規参入者の育成を行うことで生産量を増大するとともに、造林計画に基づく需要情報を生産者に提供することで需要に応じた供給体制を整え、効果的な再造林を推進していきたいと考えています。

〔県林業振興課〕



クロマツコンテナ苗の様子

平成29年度種子生産実績

樹種・品種	配布可能量	換算苗木生産量
スギ精英樹	110kg	約440万本
スギ少花粉品種	2kg	約8万本
スギ耐雪性品種	6kg	約24万本
クロマツ精英樹	1kg	約2万本
暫定抵抗性クロマツ(※)	2kg	約4万本
抵抗性クロマツ(※)	0.1kg	約0.2万本
抵抗性アカマツ(※)	0.1kg	約0.2万本

※マツノザイセンチュウ抵抗性品種

おいしい山形空港の内装木質化について

◆はじめに

山形県では、「やまがたの公共建築物等における木材の利用の促進に関する基本方針」及び「県産木材利用拡大山形県率先行動計画」に基づき、公共施設での県産木材の率先利用に努め、市町村や民間施設での取組みを促すなど、積極的な働きかけを行ってまいりました。

このたび、山形空港ビル株式会社が、「おいしい山形空港」の内装木質化に取り組みましたので、ご紹介いたします。

◆事業概要

山形空港ビル株式会社は、平成29年度の新規事業である、「山形県民間施設木造化・木質化推進事業費補助金」を活用して、出発ロビー等の内装木質化を実施しました。

具体的には、出発ロビーの4つの柱の木質化及び売店における木製カウンターの設置等です。

出発ロビーにおいては、4つの既存柱をそれぞれ村山・庄内・置賜・最上の4つの地域産のスギを活用した木製の囲いで覆うことで木質化を実施しました。

また、売店においては、存在感のあるレジカウンターをはじめ、陳列棚や平台といった大型の家具を木製にすることで、木質化を図りました。



おいしい山形空港売店

◆今後の取組み

今後も県庁ロビーの内装木質化等を実施する予定となっており、県産材を活用した更なる施設の木造化・木質化の推進に取り組んでまいります。

〔県林業振興課〕

三期生が入校しました！本格運営3年目スタート

◆平成二十八年度に入校した林業経営学科一期生は、おかげさまで全員が就職・進学することができました。そして、今年の入校式では三期生八人が入校し、二学年十人と合せて十八人の学生が、毎日元気に課業に取り組んでいます。

●初々しくもたくましい一学年

高校生の時と違う一校時九十分の授業、二人部屋の寮での共同生活、聞きなれない林業用語と日々の実習等、一学年は大きな環境の変化の中、数々の新しい体験に、たくましく取り組んでいます。

担任の先生方は、学生が安全に実習に取り組めるよう丁寧に指導しています。学校で学ぶ二年間だけではなく、卒業し林業の担い手として働く時に、自分自身で身の安全を確保できるようにしなくてはなりません。自分の子供に向けるような眼差しで生徒たちを見守っています。

●マイペースでも頼りになる二学年

四月下旬あたりから二学年は次々と森林組合や製材所等でのインターンシップに参加しています。求人



林業機械実習の様子(2学年)

本格的になるのは秋頃からですが、自分に合った希望の仕事に就くために、今から着々と準備をしています。二学年になると実習も実践的になり、林業機械実習を行っています。先日行ったグラップルの操作実習では、はい積みしている原木を発電用のバイオマス燃料に出荷するC・D材と、集成材の原料として出荷するB材に仕分けしました。学生同士で操作の安全性や効率性を評価し合いながら実習しました。



原始の森の前で集合写真(1、2学年)

●先輩に続くリーダーになるために先日開催された卒業生との懇談会には、森林組合に就職した一期生の先輩が来てくれました。実感のこもった経験談に、後輩たちは興味津々で耳を傾けていました。卒業した一期生に続き、「やまがた森林ノミクス」を担うリーダーとなるべく、林業経営学科の十八人は多分野にわたる講義、実習、資格取得、卒業論文調査、就職活動等に毎日一生懸命取り組んでいます。これから、随時、講義や実習の様子をお知らせいたしますので、皆様からのご指導等をお願いいたします。

〔山形県立農林大学校〕

◆お問い合わせ みどり自然課 (011-631-2106)

「やまがた緑環境税」活用事業
「やまがた木育」
講演会&木育カフェ
開催のお知らせ

県では、「やまがた木育」を広く県民の方々に普及するため、左記日程により「やまがた木育」講演会&木育カフェを開催しますので、是非ご参加ください。(七月十一日までにお申し込みください・参加費無料)

- ◆開催内容
- ・パネル展示、木製遊具の展示
- ・講演会
- (仮称) みんなで進めよう「やまがた木育」

・木育カフェ
県産木材を材料にした簡単な木製品を作りながら意見交換して、「やまがた木育」について理解を深めます。各自作った木製品は、お土産として、お持ち帰りいただきます。

日時	平成30年7月14日(土) 12:00~16:00
場所	協同の杜JA研修所 (山形市東古館123番地 023-643-1238)
内容	《講演》13:10~14:40 講師:岐阜県立森林文化アカデミー教授 松井 勅尚(まつい としなり)氏 演題:(仮称) みんなで進めよう「やまがた木育」 《木育カフェ》14:50~16:00 県産木材のブナやサクラノボを材料にした木製品を作りながら、参加者同士で意見交換して、「やまがた木育」について理解を深めます。各自作った木製品は、お土産として、お持ち帰りいただきます。

山形県低コスト

再造林技術実証試験事業

◆はじめに

県内の森林資源は、その多くが主伐の時期を迎えていることに加え、県内には集成材工場やバイオマス発電所が稼働するなど、木材の需要が更に拡大することが見込まれています。

しかし、主伐面積に対して森林資源の循環利用のために必要な再造林面積が少ない実情にあります。

再造林が進まない原因の一つとして、植栽や下刈りなどの造林初期に掛かるコストが、主伐収入に対して割高であることが挙げられます。

他県では、造林の初期コスト削減のため、植栽本数や下刈り回数を減らすなどの様々な技術が研究され、実証されてきています。

そうした低コスト再造林技術の本県での有効性について、県内の様々な環境で実証試験を行い、検証する必要があります。そこで、今年度からやまがた緑環境税を活用し実証試験を行うことになりました。

◆実施方法

庄内地域と内陸地域に植栽試験地

を設定します。植栽する苗木は、山形県雪害抵抗性品種のスギコンテナ

苗とします。

○低密度植栽実証試験

本県で標準的に植栽している本数はヘクタール当たり2400本ですが、その本数を段階的に1500本程度まで削減した植栽本数試験区を設定し、どの程度の本数であれば成林が期待でき、どのような形質となるのか検証を行います。

○下刈り回数実証試験

本県で標準的に行っている下刈り回数は7回前後ですが、その回数を3回程度まで削減した下刈り試験区を植栽本数試験区ごとに設定し、植栽後何年目のタイミングで何回の下刈りを行えば成林が期待でき、どのような形質となるのか検証を行います。

○その他の試験

植栽試験地を設定する地域や、センターからの提案を参考に、様々な低コスト化技術の可能性について検証を行います。

◆期待できる成果

例として、植栽本数がヘクタール当たり1800本でコンテナ苗植栽の場合、地拵えを含む植栽経費は約20パーセントの削減になります。

また、植栽後3回の下刈りで済めば、下刈り経費はヘクタール当たり約60パーセントの削減になります。

これらも含め、様々な作業で低コスト化技術の可能性について検証することにより、再造林の更なる推進と併せて森林資源の循環利用が期待されます。



植栽試験地予定箇所(遊佐町)

〔森林研究研修センター〕

受講生募集中

木材加工用機械作業主任者技能講習会を開催します!

製材工場(丸のこ盤、帯のこ盤、かな盤等5台以上設置。帯のこ盤に自動送材車付き帯のこが含まれる場合は3台以上対象)は「木材加工用機械作業主任者」の配置が義務づけられています。欠員など主任者のいない事業所は受講してください。

受講要件: 木材加工用機械による木材加工作業に3年以上従事した経験を有するもの。

開催日時: 平成30年9月12日(水)・13日(木) 8:30~17:30

場 所: 山形県森林研究研修センター 研修館 (寒河江市大字寒河江丙2707)

お問い合わせ(申込先)〒990-2473 山形市松栄1-5-41

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811



森の人紹介

西村山地方森林組合
山形県青年林業士

荒木 仁 志さん



平成二十九年
年度に青年林
業士に認定さ
れた荒木仁志
さんを紹介し
ます。

荒木さんは昭和五十七年生まれ。西川町生まれの西川町育ち。祖父が森林組合の総代を任されるなど森林とは深い関わりを持つ家庭環境だったそうです。当然、子供の頃から山や畑に触れてきた経験が多かったことから、自然の中で働ける仕事がしたいと西村山地方森林組合に勤めました。

勤めてから今年で十四年目になります。はじめは購買を担当し、四年目から森林整備を任せられるようになりました。保安林や林業公社、みどり環境税事業など幅広い業務を担当してきました。現在は西川町の町有林と水源林造成事業（公団造林）を主な業務としています。町有林では6ヘクタールの「再造林」を実施し

た経験の持ち主です。

森林整備は森林所有者から山へ案内されるところから始まり、現場に足を運ぶことが多い大変な仕事です。所有者から厳しい言葉を言われたこともあるそうです。それでも、手入れをした山を見ていただいて感謝された時は「達成感と充実感でいっぱいになる。」と話されています。

今は、職場でも中堅どころ。その立ち位置を聞くと、

「職場は大先輩がいて、僕らがいて、若手がいるという構造。若手職員が増えてきているのに自分はまだまだ…。後輩には自分の経験してきた苦労ややりがいなど伝えていきたいけど…。正直キビシイですね。」と語っていたのが印象的です。

西村山は県内でも林業の盛んな地域です。荒木さんはスポ小からバレーボールを始め、中学、高校、大学と競技に打ち込んできたアスリートです。スポーツで培われた活力を森林・林業の活性化に役立てていただくことを期待しています。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

炭焼き職人

山口 進さん



んに師事されてきました。

山口進さんは飯豊町在住で、仕事の傍ら炭焼き職人の渡部岩次さんの

岩次さんは、60年以上に渡り白炭づくりに尽力され、山形県木炭品評会において多くの受賞歴がある名人ですが、昨年度に引退されたことから、山口さんがその窯を譲り受け、白炭づくりに励んでおられます。このような中、昨年度、山形県木炭品評会に初めて出品され、最優秀賞（山形県知事賞）を受賞されました。



先日、取材に伺った日は窯の補修がされていました。一緒にいた師匠の岩次さんからは「煙突の位置が低い」と指導を受け、作り直すところでした。そんなお二

人に、炭焼きについて話をうかがいました。

● 動機を教えてください。

『子供の頃、実家は炭を焼いていました。結婚を機に飯豊町に移住していたのですが、十数年前に町内に住む岩次さんと知り合い、趣味も兼ねて炭焼きを習うことになりました。』

● 炭焼きの仕事はいかがですか？

『白炭を作る手順は、窯の中に木を並べて点火し、ふたをして炭化させ、窯から木炭を出して消火します。炭化具合を判断することが難しいのですが、煙やにおいで推測しています。夏は暑くて大変ですが、良い炭が焼けるとうれいしいです。良い炭を焼くことで評価や所得が向上し、若い人にも興味を持ってもらえればと思っています。』

● 岩次さんから山口さんに一言お願いします。

『六十数年炭を焼いているが、まだ満足する炭を焼けない。天気や材料で毎回違う。まだ失敗することも。たくさん焼いて、満足する炭を作って欲しい。』

山口さんには、山形県の白炭製造技術の数少ない伝承者として、更なる活躍を期待いたします。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

『やまがた むらやま地域 バイオマスエネルギーのはじめかた』

◆はじめに

木質バイオマスエネルギーは針葉樹の低質材や広葉樹等を原料とし、地域産材の有効活用を図るものとして利用が広がっています。

村山地域におけるストーブなどの燃焼機器は、累計約一二〇〇台の導入実績となっており、前年度に比べて二〇〇台以上増加しています。その多くは家庭用の薪・ペレットストーブとなっています。

村山総合支庁では、導入を検討している方に向けたガイドブック作成や、木質燃料・燃焼機器販売店マップの整備などを進めてきましたが、さらなる利用拡大を図るため、木質バイオマス燃料利用促進事業（産業廃棄物税基金活用事業）により、はじめに導入を検討されている方向けのパンフレット「やまがた むらやま地域 バイオマスエネルギーのはじめかた」を作成しましたので紹介します。

◆パンフレットの紹介

パンフレットはB5版で8ページとなっており、手に取りやすいサイズとなっています。

内容は、森林資源に関することから、生活スタイルの紹介、購入先など、イラストや写真を多用して初めての方にもわかりやすい構成となっています。



パンフレット外観

【記載内容】

- ①日本の森林はいま
- ②村山地域の木材《西山杉》
- ③大きな可能性を持つ《木質バイオマス》
- ④薪ってどんなもの？
- ⑤ペレットってどんなもの？
- ⑥薪ストーブ紹介
- ⑦ペレットストーブ紹介

- ⑧村山地域のペレット・薪MAP
- ⑨補助金・助成金のご案内



パンフレットは村山総合支庁本庁舎及び西村山・北村山地域振興局ロビーの木質バイオマス紹介コーナー等に設置しているほか、要望に応じて配布していますので、村山総合支庁森林整備課までお声掛けください。

〔村山総合支庁森林整備課〕

木造建築は新たなステージへ。

～大規模・中高層×耐火性能×地域産木材活用～

木質耐火部材 COOL WOOD。【1時間・2時間・3時間】

国内初・3時間耐火の国土交通大臣認定を取得！
超高層ビルにも木造を取り入れられる！

- ①核となる「構造部」と「表面材」に木材を使用
- ②中間部の「燃え止まり層」に石こうボードを使用
- ③地域産木材が活用可能！



シェルターなんようホール（南陽市文化会館）
地域産材を活用した1時間耐火建築

Shelter®

木造都市のバイオニア
株式会社 シェルター

本社/山形市松葉1-5-13
東京支社/東京都港区芝5-13-15 芝三田森ビル
仙台支社/仙台市青葉区本町2-18-21 タケダ仙台ビル
プレカット工場/寒河江市米沢東209-1

TEL023-647-5100
TEL03-5418-8800
TEL022-797-5800
TEL0237-86-8529

www.shelter.jp

木質バイオマス熱利用 最上町における苗木生産の取組みについて

はじめに

最上町は、主伐期を迎えるスギが人工林面積の約半数を占める状況にあります。そこで、森林所有者の所得向上と林齢構成の平準化を目標に、持続可能な森林経営につながる主伐・再造林の取組みを官民一体で進めています。その中で、平成29年度より始めているコンテナ苗の試験生産について紹介します。

◆苗木生産に向けた取組み

近年、再造林面積の増加により、スギのコンテナ苗の需要が大幅に伸びており、再造林に必要な苗木を安定的に確保することが重要な課題となっています。

そこで町では、(株)下山製材と共同で、平成29年度より園芸用ハウスを利用してスギのコンテナ苗の試験栽培を開始しました。

従来の露地栽培では、スギは春に播種しますが、最上町では晩夏に播種を行います。露地で発芽させた苗は、冬期間、町の木質バイオマスボイラーの熱を利用した園芸用ハウス内で生育させることで、約13か月で出荷可能な規格まで生育させ、育苗

期間を従来の露地栽培より約半年間短縮することを目標としています。



ハウス脇での試験栽培の様子

◆今後の取組み

現在は、試験栽培の段階であることから、育苗期間の短縮による低コスト・省力化栽培技術を早期に確立し、これまでより、需要に柔軟に対応できるコンテナ苗の栽培体制を構築することを目指しています。

今後は、主伐・再造林に加えて、昨年度から町内民有林で取組みを始めた一貫作業システムで、町内産のコンテナ苗が活用され、普及拡大していくことが期待されます。

〔最上総合支庁森林整備課〕

マルカ林業株式会社

「木質バイオマス発電」の稼働に向けて

本県の豊かな森林資源を「森の恵み」、「森のエネルギー」として活かしていく「やまがた森林ノミクス」を推進する事業として、新庄市の中核工業団地で整備を進めているマルカ林業株式会社の木質バイオマス供給施設がまもなく完成します。

この施設は、建設中の「木質バイオマス発電施設」で使用する燃料チップの製造を行うものです。平成29年4月から着工し、平成30年7月に完成、10月から稼働予定です。1日当たり約240tの木質チップを生産する計画となっています。

発電所は平成30年12月の稼働を予定しており、発電方法は蒸気タービン方式で発電出力は6、800kWになります。消費される燃料チップは年間約75、000tを予定しています。このため、施設内に原木の貯留施設を建設したほか、近接地に新たに4箇所を確保し、原木の受入がまわっています。

また、森林の再生を図るため、同社の所有地において苗木生産の取組みも行われています。

これらの施設は地域に密着した森林資源の有効利用と森林の再生及び地域林業の活性化や雇用創出に貢献する取組みとなっています。



建設中の発電施設(左)と完成間近の供給施設(右)
(平成30年4月撮影)

木質バイオマス発電所の稼働により、最上地域をはじめとする周辺地域のC・D材の大規模な利用が見込まれます。今後も「やまがた森林ノミクス」が一層推進されるよう林業関係者、関係団体及び行政関係者等皆様方の御協力をお願いします。

〔最上総合支庁森林整備課〕

DSグリーン発電米沢合同会社米沢南発電所 未利用木質バイオマス発電の取組みについて



DSグリーン発電米沢南発電所について、ご紹介させていただきます。総事業費はチップ加工設備を含め約32億円、発電出力は6,250kW、約51万円/kWとなっています。また、年間の売上げは、約11〜13億円、燃料購入費は年間6〜7億円を見込んでおります。当発電所は、今年の1月から営業運転を開始致しました。まずはFITのお蔭で売り上げが安定しており、加えて設備も非常に安定しています。原木由来の燃料は性状が安定しているため、直接燃料方式ボイラーの故障リスクも小さいのです。

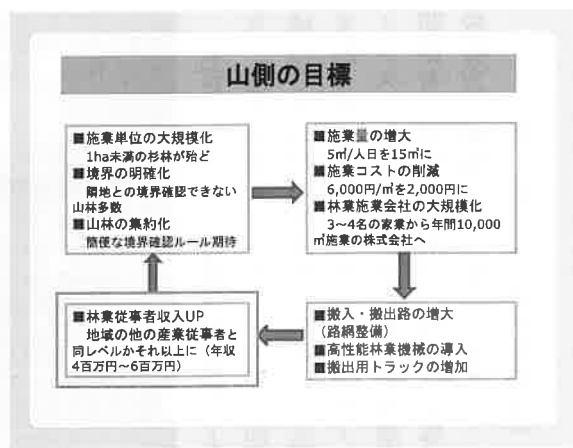
ただし、燃料集荷の安定性という点で、大きな課題を抱えていると言えるでしょう。なぜかと言いますと、例えば、発電所が進出した周辺地域に1万tの未利用材の供給量があったとします。発電所が建設から稼働までの約3年の間に、供給量を頑張つて2倍の2万tにまで拡大したとします。一方、当社規模の発電所の場合、稼働した瞬間から、年間8万tの木質燃料が必要となります。ところが、林業施業量はそう簡単には増加せず、山林の燃料供給量というのは毎年少しずつしか増加しません。この燃料供給量と必要量のギャップがネックとなる可能性が少なくなく、燃料集荷が大きな問題なのです。この不足分を埋めるために、当発電所では、パーム椰子殻を助燃材として利用致します。

次に、対する山側の目標・課題についてです。まずは、生産効率によるコスト削減を図るために、「施業単位の大規模化」が必要なのですが、米沢市周辺の山林は、1ha未満の所有者がほとんどで、戦後植林し、裏山を財産として所有しているという方が大半を占めています。また、「山林の境界の明確化」も重要です。とにかく、山林に分け入ると、隣の境が全く分からないという例が少なくありません。これについては境界を画定する新しいシステムができる、と言う話も聞きますが、現場としては簡便な境界線画定ルールの確立を望みます。

こうした課題が改善され、山林からの木材産出量が増えて行くと、今度は「生産性の向上」という課題が生じて来ます。仮に従来の生産性を5m³/人日としますと、これを3倍の15m³までアップさせることを目指すべきです。同時に「施業コストの削減」も必要で、仮に6千円/m²とした時に、これを2千円、3分の1にまで圧縮することが必要です。加えて、「林業施業会社の大規模化」が不可欠です。3〜4人の家業や「親子2人」という例も少なくありません。これが年間1万m³生産する企業へと伸びて行けば生産性も飛躍的に上がり、コストの劇的圧縮も夢ではないのではと希望を持っております。

そして、これらがさらに改善されて行くと、今度は搬入・搬出量が増えるので、「山林の路網整備」も必要となります。これと並行して、「高性能林業機械の導入」や「搬出用トラックの増加」も急がなければ、作業効率アップは図れません。そして、最後に重要なのが、「林業従事者の収入アップ」だと考えます。最後に、国内の木材の賦存量は50億m³と膨大で、毎年8千万m³ずつ成長しています。一方、木質バイオマス発電1カ所の年間における木材使用量を、仮に10万m³とすると、50カ所稼働させれば500万m³となります。しかし、この数字は賦存量の1千分の1、成長量の16分の1に過ぎません。未利用のポテンシャルは成長量を考えれば16倍あるわけで、まだまだ充分な量が山にあります。そのためには、大規模化によるコスト低減が不可欠なのですが、いずれにせよ、バイオマス発電の普及こそが、林業の復興への確かな道だと確信します。

〔グリーンサマー株式会社〕



羽越木材協同組合 大型製材工場稼働

原木の効率的集荷とラミナ材の供給強化

はじめに

羽越木材協同組合（代表理事 東泉清壽）では、平成29年10月に酒田市平田地区において木材のストックヤードを整備しましたが、この度、鶴岡市内の庄内南工業団地において、大型製材工場を整備し本格稼働を開始しました。

◆事業の目的

近年、集成材工場の整備や木質バイオマス発電事業等により、木材の需要が大きく高まり、素材生産拡大に向けた取組みが活発化しています。

その様な状況の中で、羽越木材協同組合では、庄内地域の原木の効率的な集荷を目的として、平成28年度山形県合板・製材生産性強化対策事業を活用し、庄内北部地域の原木について全量買取りを行うストックヤードを先行整備しました。今回の製材工場の整備はそれに続くもので、庄内南部地域の原木について全量を買取り、そして製材等を行います。原木を効率的に集荷し、同組合が運営する集成材工場（新潟県村上市）へ向けたラミナ材の生産・供給強化

を図ります。

◆製材工場の概要

敷地面積は約1万5百㎡、鶴岡市下山添地区にある庄内南工業団地に位置しています。

整備内容としては、ツインバンドソー1式、原木選別機1式、作業用建物2棟、貯木場舗装、その他に、ウツドハッカーを1台、フォークリフトについては3台の導入となりました。



株大井製作所製 ツイン帯鋸盤

原木取扱量としては当面、月間1千㎡ほどですが、将来的には年間約3万㎡の原木取扱量を計画しています。ツインバンドソーでは樹皮付きのまま製材する方式を採用し、製材工程の効率化を進め、主に集成材用ラミナ材の製材を行います。

また、原木選別機も併せて導入することで原木の全量を受入れ、製材用とチップ用に分別します。

庄内南工業団地では既に、羽越木材協同組合が運営する木質チップ工場（鶴岡工場）が稼働しています。

今回の製材工場は、そのチップ工場に隣接する形で整備されました。同じく、チップ工場隣接地には鶴岡バイオマス発電所が平成27年から稼働しており、製材工場が整備されたことにより、原木のフル活用が可能となりました。

また、雇用については、製材工場では新たに4名を採用し、チップ工場、バイオマス発電所と併せたこの一連の関連施設において、20名の地域雇用を創出しています。

◆おわりに

原木市況は価格差が大きく、素材生産業者は不安定な経営となつていくことが多いため、集荷された原木を材質にかかわらず一定の価格で全



原木選別機での丸太選別状況

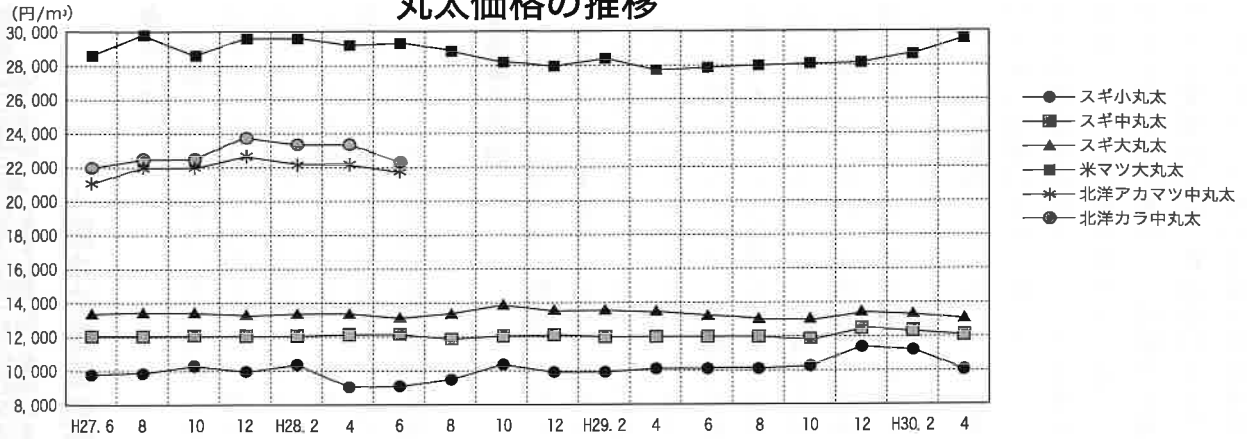
量の買取りを行う体制を構築することにより、集約化施策の推進、利用間伐材の拡大が見込まれます。

安定的な木材の供給、そして輸送コストの削減にも取組み、3つの施設（製材工場、チップ工場、木質バイオマス発電所）が一体となつて木材利用の拠点となり、そのことが森林資源のフル活用、カスケード利用の推進に寄与するものではないかと考えます。

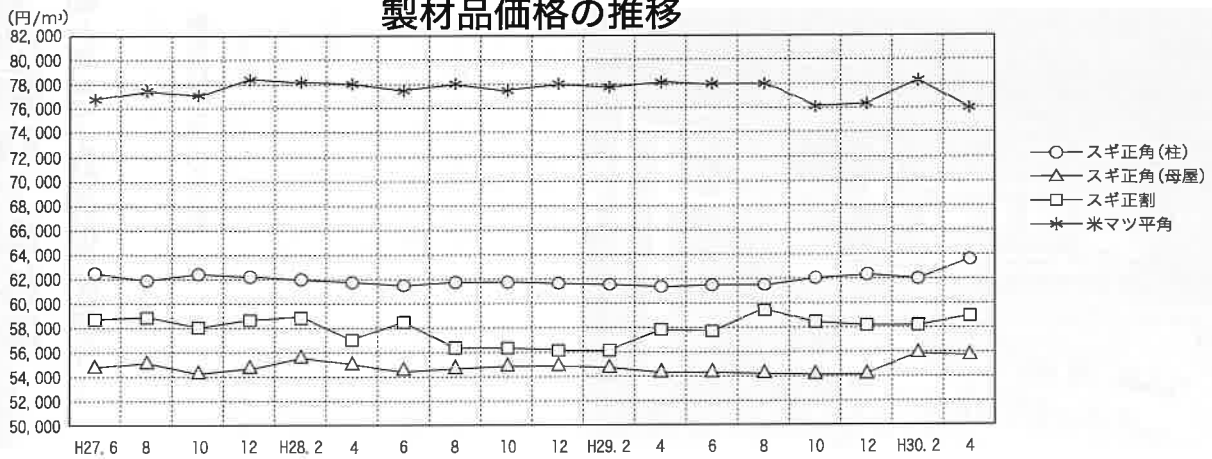
同時に、「地域の資源は地域で利用する」という理念を忘れず、「地域経済の循環社会形成」を目指してまいります。

〔羽越木材協同組合〕

丸太価格の推移



製材品価格の推移



平成三十年七月一日発行 (隔月発行)
 編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会

監修

印刷所 山形県農林水産部
 渡辺印刷



“ 森の力に恵まれて ”

県産材JAS《AD・KD》製品自信あります。ご用命承ります。

株式会社

阿部製材所

本社(酒田)／北港工場／やまがた中央木材市場
 J A S 認定工場：本社工場製材／北港工場乾燥

阿部製材所

検索



土砂災害を防止・軽減するには「治山施設」が必要です
森林を整備・利活用するには「林道施設」が必要です

会 長	東南村山支部長	堀川 隆志	羽陽建設(株)	理 事	北村山支部長	大山 圭介	大山建設(株)
副会長	新 庄支部長	永井 敏行	永井建設(株)	理 事	庄 内支部長	五十嵐久廣	鶴岡建設(株)
副会長	置 賜支部長	那須 正	那須建設(株)	監 事	東南村山支部	荒井 孝直	(株)山形組
理 事	西 村 山支部長	佐藤 欣治	大東建設(株)	監 事	西 村 山支部	大泉 雅裕	(株)大泉組

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所：山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail: info@y-sinrin.jp

定価 二八八円